

M. Y 様 38 歳 女性 入院期間 2016 年 6 月 7 日～ 8 月 19 日
ステロイドでコントロールできなくなった重症アトピー性皮膚炎

25 歳 出産後から全身性にアトピー性皮膚炎が生じるようになり、ステロイド外用にてコントロールしていた。

36 歳 自身で脱ステロイドを試みたが、炎症の悪化に耐えられず 2 週間で挫折。その後、顔はマイルドタイプ、体部はベリーストロングタイプのステロイド外用を毎日使用していた。37 歳 化粧品カブレで顔の発赤・腫脹が改善しなくなり、ステロイド外用・内服にても赤みが改善できなくなった。

プロトピックを使用した、翌日から単純ヘルペス感染（カポジ）が生じ中止。毎日全身にステロイド外用を継続したが、顔の赤みは改善せず、頭皮から滲出液が出始めたため不安になり、大阪の脱ステ病院に入院。

2 ヶ月間である程度改善して退院し、近医の脱ステロイド皮膚科に通院していたが、手荒れをきっかけに退院後 1 ヶ月で元の状態に悪化した。

その後も 3 ヶ月間通院し自宅療養を行ったが、顔を含めた全身性のアトピー性皮膚炎が改善しないまま持続。改善の見通しが立たず他の治療を模索する中、インターネットで当院を知り入院となった。

ステロイドを使用せず、自然療法で全身性の重症アトピー性皮膚炎をコントロールしたいという強い希望があり、育ちざかりの子ども 3 人がいるため家族のサポートを受けての入院でもあった。

入院時は顔を含めた全身の紅斑、強い落屑（皮膚の角化剥離）、掻破（掻き傷）と強度の掻痒（かゆみ）があり、手指が腫脹して指輪がくい込み取り外せない程の状態だった。

症状が強く、抗アレルギー剤併用を行いながら BSC（バチルスSPAケア）を開始。反応はゆっくりだったが、確実に炎症は低下した。

本来なら 3 ヶ月は必要なケースだが、育児が待っていてそうは言っておられず、入院から約 2 ヶ月で TARC が 1/3 まで低下したためこの時点で退院し、退院後は自宅で BSC を継続することとなった。

退院後、約 3 ヶ月経過後の外来受診時にはアトピー性皮膚炎は劇的に改善し、乾燥肌のみとなった。各炎症マーカーはもう少しで正常値だ。

BSC による本来の自然免疫の賦活は、アレルギー免疫のアジュバンドセラピー（免疫変換療法）として明確に機能している。

入院で重症状態を脱したあとは自宅で継続し、自然免疫刺激を継続する事によって、免疫はより一層本来の状態に近づき、次第に入浴時間は少なくとも健康な肌を維持できるようになってきます。

	基準値	2016/6/3	2016/7/7	2016/8/2	2016/10/28(外来)
TARC	450 以下	24572	19390 ↓	7879 ↓	1782 ↓
LDH	120～245	479	319	277	193
IgE	170 以下	9629	10356	13953	6467 ↓
好酸球	7%以下	28	38	17 ↓	7.9 ↓
POEM（自覚症）	最重症者 20～28	28	24	21	15 ↓

2016.6.3



8.2

